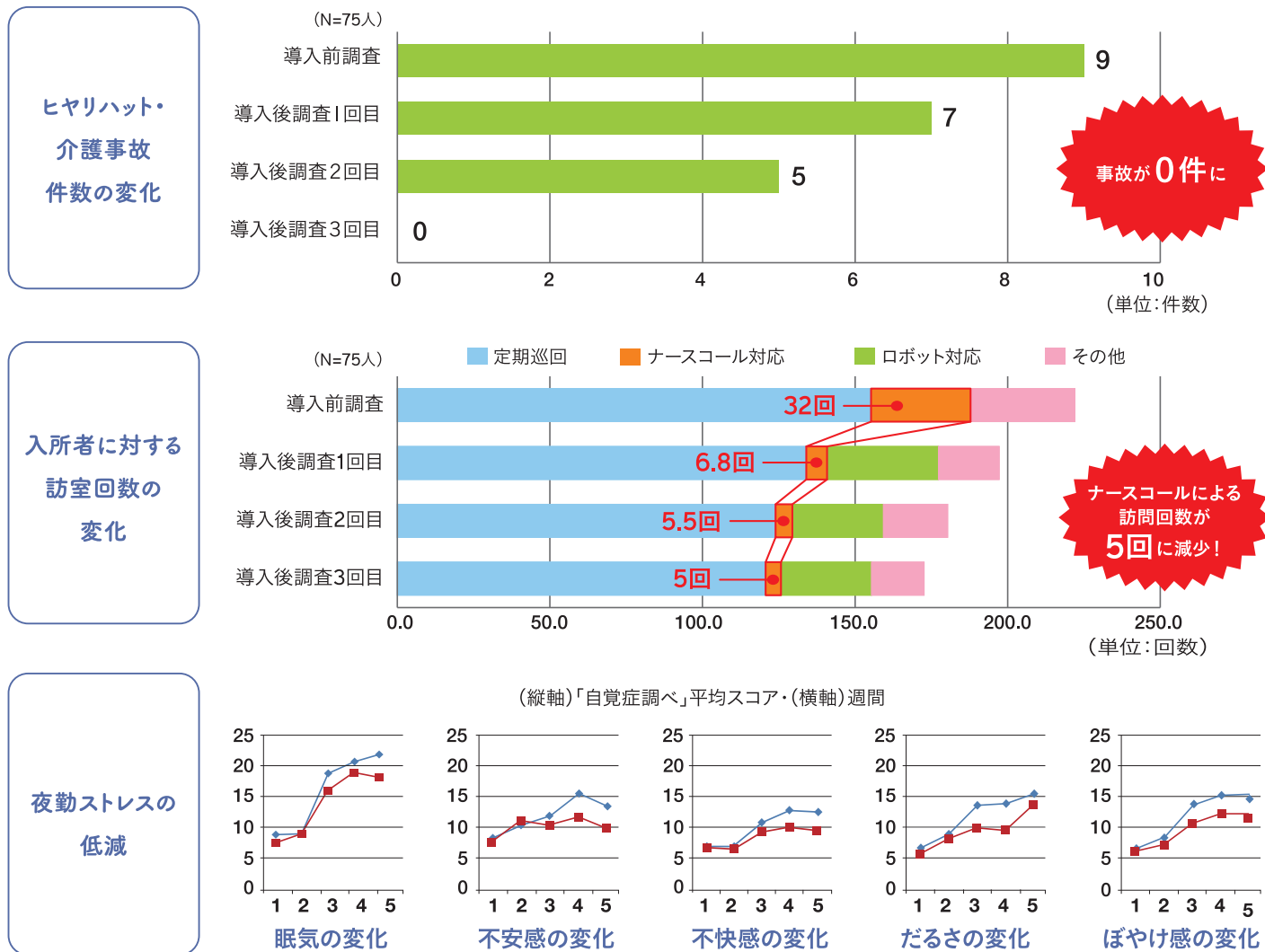


A.I.Viewlife 導入によるメリット

さまざまな実証試験から、このような見守りシステムのメリットが見えてきました。特に過酷な深夜夜勤に対して安心感が得られることで、働く側の**ストレス低減などの効果**が見られており離職率の低下などが期待されています。



介護見守りシステムの導入により、事故の減少・夜勤ストレスが低減

具体的にご体感いただけた点

- VOICE 01

365日24時間いつでも入居者様の生活動作を見ることができ、訪室できない時に役立つ
- VOICE 02

見守り対象が全居室エリア（ベッド、居室、トイレ）であることから、他の作業に目配りができる
- VOICE 03

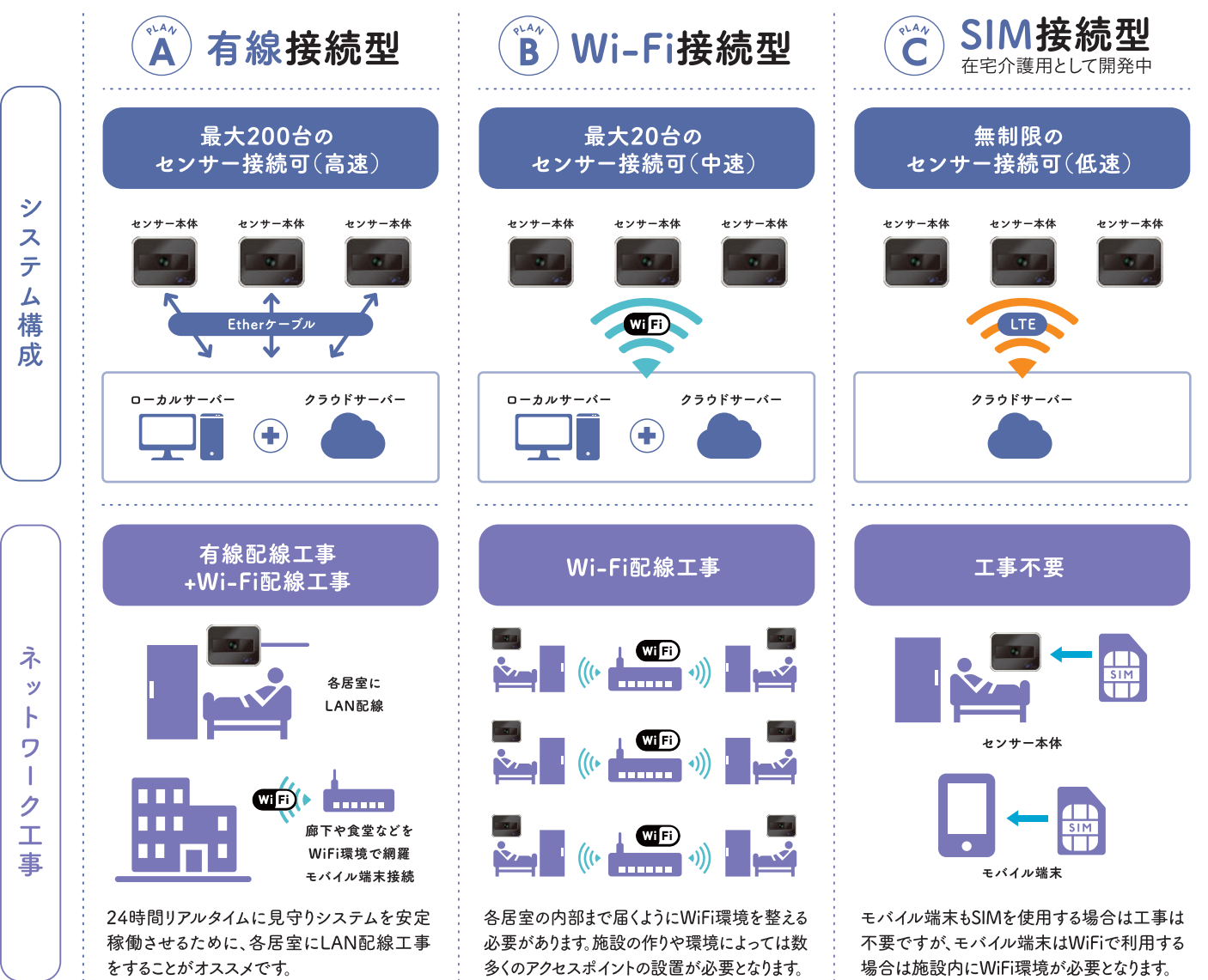
介護作業が重なった時の優先順位を決めることができる
- VOICE 04

検知履歴データが自動保存され、端末からも閲覧できるのでその後のケアが正しく行える
- VOICE 05

居室の様子を確認しながら訪室できストレスが軽減される
- VOICE 06

万が一事故が発生した場合のエビデンスが保存されているため、安心して作業ができる

システム構成 / ネットワーク工事



今後拡張するサービスとの接続、およびデータの有効な利活用のため「クラウドサーバー」環境でのシステム構築を今からオススメします。

●ローカルサーバー（標準版）

対応OS	OS: Red Hat Enterprise Linux 7.2 (64bit)
	●CPU: Intel Xeon E3-1271v3 (3.6GHz 4コア/8スレッド) 以上
	●メモリ: 8GB以上
パソコン推奨スペック	●ストレージ空き容量: HDD SATA 1TB以上
	●ネットワークインターフェース: 1000BASE-T
	●モニター解像度: 1280×1024以上
	●DVD-RAM

●モバイル端末

推奨モバイル	対応OS: Android 5.x以上 / iOS 9以上
--------	-------------------------------

※クラウドサーバー使用時はサーバーPCを必要としません。

●センサーユニット本体

外見寸法	122×92×56(mm)
質量	450g(ケーブル含まず)
電源仕様	PoE HUBからの給電またはACアダプタ
定格電気容量	DC5V 0.5A
LAN接続	1000BASE-TまたはWi-Fi(802.11bg)
設置場所	壁 / 天井 ※接地面が十分な重量を保持できる強度を有すること
面角	水平90度×垂直70度
消費電力量	15W以下
使用時温湿度環境	0℃～50℃
機器耐用年数	5年

販売会社名



エイ アイ ビューライフ 株式会社
 〒102-0092 東京都千代田区隼町2-13 US半蔵門ビル201
 TEL: 03-6261-6327 URL: www.aiview.life

自立支援型 介護見守りロボット

A.I.Viewlife

介護の現場を「見える化」することで、入居者様の自立支援促進と重度化を防止し、現場の生産性の向上、介護人材確保につなげます。



POINT
必要情報のみ表示

POINT
広角IRセンサー

POINT
生体異常を最優先告知

POINT
視覚的に行動を把握



✓ A.I.Viewlife の4つの特徴

POINT 01

危険予兆 動作の検知・予測

入居者様のベッドエリアでの「起き上がり」「立位」「境界位」「離床」など、危険予兆動作を検知します。入居者様によっては危険度の高い動作に対してアラートがなり、迅速に対応することが可能です。



POINT 02

業界初

危険状態の 検知・緊急通知

入居者様の居室全エリアでの「転倒」「うずくまり」「横たわり」「ずりおち」「ベッド転落」「トイレ異常(※個室のみ)」など、危険状態を検知し救急対応できるよう最優先レベルでの通知を行います。介護職員は居室の中の状況(リアルタイム映像)を確認した上で、迅速に駆けつけることが可能です。



POINT 03

生体異常状態の 検知・緊急通知

生体情報検知センサーをあわせて取り付けることで、入居者様がベッド臥位状態にもかかわらず生体反応がない場合、最優先レベルでの通知を行います。



POINT 04

一括集中見守り システム

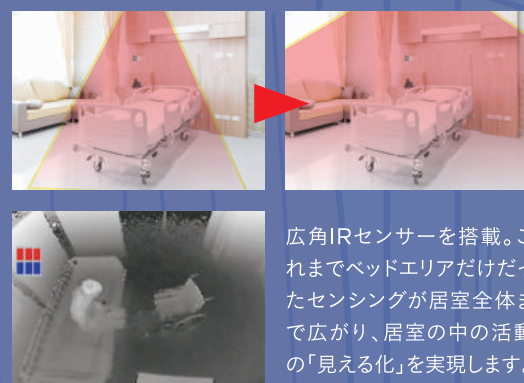
介護施設内の詰所に設置されたPC画面には、居室の中の状態がひと目でわかるような管理画面が映し出されます。必要な時に必要な情報を表示するため、夜勤の見守り閲覧業務などの負担をかけません。



個室でも多床室でも、居室の中の活動を「見える化」することで、 働き手の負担を**劇的**に軽減します。

個室イメージ

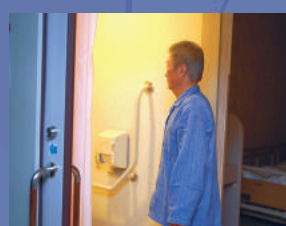
居室全体を検知



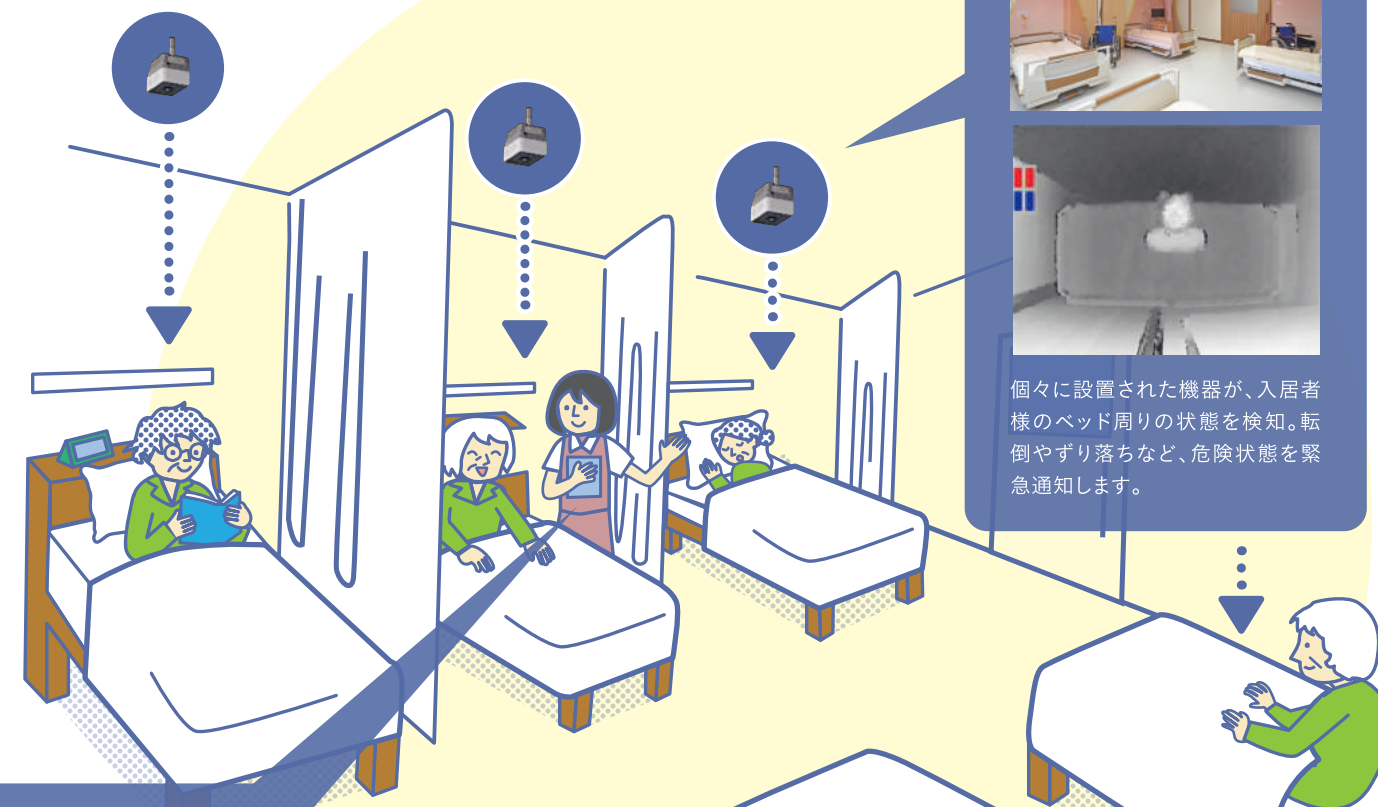
広角IRセンサーを搭載。これまでベッドエリアだけだったセンシングが居室全体まで広がり、居室の中の活動の「見える化」を実現します。

居室・トイレ入退室ゲート機能

個室では、居室のドアとトイレをゲート設定することで、入居者様の「トイレ入退室」「居室の入退室」が分かります。生体動作を記録することで、排せつ時間などが予測でき、事前対応が可能となります。



多床室イメージ



ベッド周りを検知



個々に設置された機器が、入居者様のベッド周りの状態を検知。転倒やずり落ちなど、危険状態を緊急通知します。

対応の優先度が明確に



目の前の入居者様と接している時に、急に別の居室のアラートが。そんな時も精度の高いセンシング技術と見える化によって、対応の「優先度」が明確になります。

生体センサーにより常時見守り



入居者様に生体異常があった場合に、介護職員に対して最優先でアラートをかけることで駆けつけることができます。特に目が届きにくい就寝時でも常に見守りが可能になり、重大な事故の防止につながります。

✓ A.I.Viewlife 導入後にアンケートを実施した結果

○：良かった点 ×：悪かった点

夜間勤務の負担軽減

○：居室内での在室および生体確認ができることから、夜勤巡視の回数を削減することができる
×：誤動作もあることから、機械ではなく自分の目で確認する必要がある

転倒・転落事故件数の減少

○：危険予兆動作の検知による事前対応と危険動作の検知による救急対応ができる
×：検知回数が増えたことにより、転倒・転落事故件数は以前よりも増えた

ストレス軽減

○：居室内が見えることにより、様々な精神的ストレスが軽減される
×：誤って検知されることがあるため、機械が信用できなくなった

訴訟リスクの回避

○：検知履歴情報が事故発生時のエビデンスとなる。看取りに関しては生体異常として事前検知される
×：介護職員の行動が監視されているように感じて不快である

✓ 環境知能(AI)を活用した自立支援を促す取り組み (A.I.Viewlife が目指すこれからの介護)

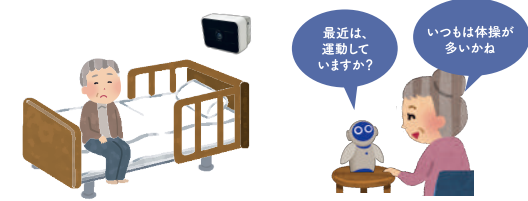
個々の環境にあわせた AIによるサービス

日常のセンシングによって入居者様の安全に見守り、得られた入居者様ごとの環境情報にあわせて適切なサービスに落とし込みます。介護現場でのサポートはもちろん、高齢者のQoLを上げるための自発的動作の促しなど、私たちは「環境知能(AI)」の概念を取り入れた、ひとつ上の介護サービスを提供していきます。

センシング(IoT)

- ・日常生活動作
- ・トイレの時間
- ・起き上がり時間、他

自然対話による情報
入居者様の状態(活動情報など)を自然対話によって学びます



環境知能マップ(AI)

介護士、医師、看護師など、それぞれの専門性を持ったAI(知能)が、環境情報を解析して、サービスに落とし込みます。

対象者へのアプローチ(サービス例)

介護プランの提案
入居者様の日常生活動作記録から自動で適切な介護プランを提案

自発的動作の促し
入居者様の活動データを把握し、ロボットが自律的に提案

